

大野記念病院 広報誌

OHNO *Fan*

January 2023

Vol.

1



OHNO *Fan*
January 2023

社会医療法人 寿楽会 大野記念病院 広報誌
OHNO Fan 第1号 (2023年1月15日発行)

〒550-0015 大阪市西区南堀江1-26-10
お問い合わせ 大野記念病院 企画広報課 TEL:06-65531-1815 FAX:06-65536-6390



新年明けまして

おめでとうございます。

大野記念病院は、令和6年1月に創立100周年を迎えます。

1924(大正13)年に西区南堀江に外科大野病院を開設以降、「心のふれあいと安全で質の高い専門医療を通して人々に最良の癒しを提供する」を理念として、今日に至っています。

ひとえに、100年という長い年月を越えて来られたのは、地域の皆さまをはじめ、近隣の医療機関や介護サービス事業所との連携があつてこそだと考えております。改めて、御礼を申し上げます。“ありがとうございます”。

2019年12月に中国の武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症は、全世界を巻き込みながら、すでに3年という長い経過を辿っておりますが、未だに減少傾向が見られません。当院は、重点医療機関として新型コロナウイルス感染症に対峙してきました。この3年という期間は、非常に長く、そして様々な経験を得た期間になりました。それらの結果、当院においては新型コロナウイルス感染症に対し「正しく怯え、正しく対応する」事が出来ていると考えています。

新型コロナウイルス感染症においては、今までの医療体制を大きく変更する事が必要となりました。医療はもともと労働集約産業であり、患者と医療人が対面接触しなければ、治療、手術、診断、看護、介護等が提供できないものです。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、マスクの着用を徹底し、一定の距離を保ち、スキンシップも制限されています。

人の身体的健康面に重点を置いてきた従来の健康に加えて、精神の健康面にも配慮した取り組みが求められています。

こうした中で、失敗を将来へ活かし、単純に事象を捉えるのではなく、自分達の行動に敏感になりながら、専門知を集結させ、チームを結束し、レジリエンスに行動を行っていく事の重要性を改めて認識しました。今、医療に求められている「チーム医療」で難局を切りぬけていく必要があります。今後も、地域に根差す病院としての社会的責任を果たしていく為に、積極的な対応を行っていきます。

また、心身の健康は、「職場の長期的パフォーマンス向上に寄与する」という考えから、最近では“健康経営”を積極的に実践する企業が増加してきています。

人生100年時代においては、健康を維持し、生き生きと働くことが重要です。

医療現場においても例外ではありません。「明るく・楽しく・前向き」に仕事を励むことが医療人の最高の喜びになります。その為にもチームワークを強化し、外部環境の変化に柔軟に対応しなければなりません。働き方の多様性に対応した、適切な労働時間を含めた良好な職場環境が必須になります。

職員満足度を高めることなくして、患者満足度の向上は望めません。

働きやすく、働きがいのある職場は、間違いなく優秀な人材を輩出し、質の高い医療を提供し、患者さんの更なる笑顔を生み出すと考えております。

100周年の節目に向かって、更に職員を大切に想い、成長できる職場環境を構築して参ります。

本年も皆様にとって素晴らしい一年になりますように心から祈念申し上げます。



いつでも外科医として ただただ実直に、確実に。

私たちは、特別なことはできません。

ですが、患者さんにとって、ご家族にとって

何が一番ベストなのかを常に考え、チームで医療を行っています。

プロフェッショナルなコメディカル職員と意見交換をし、

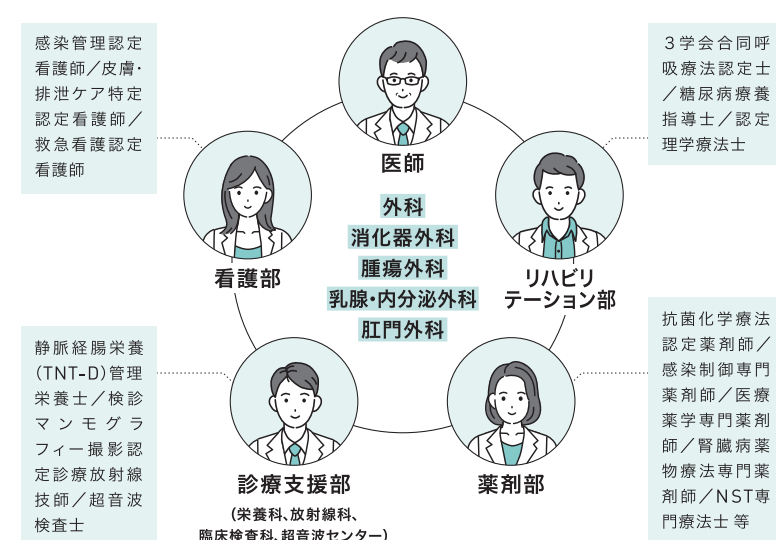
時には素直に受け入れます。

それが「一人ひとりの患者さんの為に、ひいては地域の為になる」

そう信じて日々診療を行っています。



“サポート”ではなく、“メイン”として



全ての職員が、自身が患者さんの一番の“メインスタッフ”という気持ちで対応をしています。多職種で意見を出し合うカンファレンスでは時には意見のぶつかり合いも…ですが、それも全て患者さんに「一番ベストな医療を提供したい」という共通認識があり、また職員同士の信頼関係があるからこそできる事だと確信しています。最終判断はもちろん私たち医師が責任を持って、しっかりと考えて行いますが、判断に至るまでの材料はチームで作っています。

【外科】

二人三脚、 三人四脚以上の治療を



一般外科、腹部・肛門外科中心に診療をし、胃がん、大腸がんなどの腹部のがんの手術だけでなく、胆石症、虫垂炎、鼠径ヘルニアなどの良性疾患の手術、肛門疾患（痔核（いぼ痔）、痔瘻）の手術も行っています。腹部の手術は腹腔鏡で行うことが多く、患者さんの希望に沿った治療のご提案を心がけています。また、疾患の緊急度に応じて、24時間緊急手術にも対応しています。もちろん、手術ばかりではなく、投薬治療や、癌化学療法にも力を入れており、患者さん、ご家族の希望に沿った治療提案を心がけています。

【乳腺・内分泌外科】

患者さんの手術は 術前から始まっている



令和4年1月に専門医を常勤医として配置し、乳腺疾患と内分泌疾患に対する外科的治療を行う、乳腺・内分泌外科を新設しました。それに伴い、甲状腺センターが開設され、センター内の外科的部門も担っています。乳がんは外見の変化が伴う事も多く、患者さんの心のケアも乳腺専門医として重要な治療と考えております。希望を持って前向きに、また安心して治療に立ち向かっていただけるように心の声に常に耳を傾け治療を進めていきます。

“絆”を大切に

私たちは、“絆”という言葉을大事にしています。

患者さんに今必要な医療を提供するためには、信頼関係が必要です。

ご家族との“絆”、われわれ医療従事者との“絆”を固く結べるように、不安があればしっかりと話しをしていきましょう。

Mr.Nomura

消化器外科医として、腹腔鏡手術や緊急手術を行っています。趣味はゴルフでリフレッシュ。好スコアが出ていても、呼び出しがあればすぐに駆けつけます。

Mr.Ohtani

サッカー部出身で、2022年のサッカーW杯では大変興奮いたしました。趣味のゴルフをしながら、自然の中をゆったり歩くのが好きです。オンオフをしっかり分けることで、仕事への活力が上がり、質の向上にも繋がっています。

Mr.Nakagawa

外科医ですが、今はメスをおいて地域医療などを担当しています。趣味は読書かな？司馬遼太郎全集や、トルストイの「アンナ・カレーニナ」を北御門二郎訳で読んでいます。

Mr.Noda

漫画が好きでよく読みます。ブラックジャックなど漫画に出てくる医者はどんな病気でも手術で治す凄腕ばかりです。そんな外科医に近づくために日々勉強しております。

院長代行 副院長

中河 宏治

医学博士／日本消化器外科学会認定医／身体障害者福祉法第15条第1項指定医師（ぼうこう又は直腸機能障がい）

副院長 外科部長

大谷 博

医学博士／日本外科学会指導医・専門医／日本消化器外科学会指導医・専門医／日本内視鏡外科学会技術認定医／日本大腸肛門病学会大腸肛門病専門医／日本腹部救急医学会腹部救急認定医／日本がん治療認定医機構日本がん治療認定医／ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター（ICD）／身体障害者福祉法第15条第1項指定医師（ぼうこう又は直腸機能障がい）／大阪公立大学医学部臨床教授

消化器外科部長

埜村 真也

医学博士／日本外科学会指導医・専門医／日本消化器外科学会指導医・専門医／日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医／日本大腸肛門病学会大腸肛門病専門医／日本腹部救急医学会腹部救急認定医／日本乳癌学会乳腺認定医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／身体障害者福祉法第15条第1項指定医師（ぼうこう又は直腸機能障がい）

乳腺・内分泌外科部長

野田 諭

医学博士／日本外科学会指導医・専門医／日本乳癌学会乳腺指導医・乳腺専門医／日本内分泌外科学会専門医／日本超音波医学会専門医／精度管理中央委員会 検診マンモグラフィ読影認定医／乳がん検診超音波検査実施・判定医師／日本消化器外科学会専門医／日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医

医員

今西 大樹

腎臓病センターのこだわり。

2日に一度お会いするからこそ
家族や友達のように楽しく、
時には医療従事者として厳しく親身にご指導します。

大野記念病院腎臓病センターでは、「歩いて通える透析室」を目標とし、フットチェック、フットケアにより末梢動脈疾患(PAD)*の予防に努めています。上腕足首血圧比(ABI)や皮膚組織灌流圧(SPP)検査の結果をもとに投薬による血流改善や傷、潰瘍を形成している場合には吸着療法(体内にある有害物質を特定の薬物や物質に吸着させて除去する治療法)など積極的に治療に取り組んでいます。また、リハビリテーションによる運動機能の維持や管理栄養士による栄養指導など多職種で連携協力し、皆さまが歩いて通院し、豊かな日常生活を送っていただくお手伝いをさせていただきます。

※末梢動脈疾患(PAD)とは… 動脈硬化によって動脈の内腔が狭くなったり、つまったりすることで血液の流れが悪くなり、「足の色が悪い」「歩くと足が痛くなる」といった症状が出現する病気です。放置していると、下肢の壊死から下肢を切断しないといけなくなることもあり、早期の診断、治療が重要です。当院には、血管外科もありますので専門医の診断・診療も可能です。

腎臓病センターのパンフレットが完成！

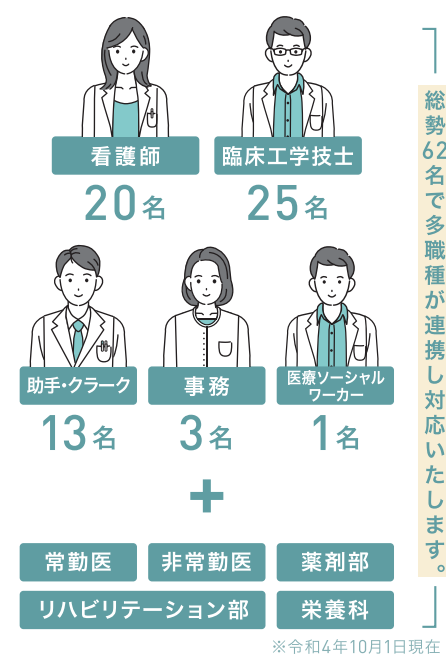
当院、腎臓病センターを皆さまにより知っていただくために、紹介パンフレットを作成しました。1階、2階の広報誌ラックに置いてあるので、ご自由にお取りください。



Did you know? 数字でわかる! 大野記念病院

“62”は何の数字?

腎臓病センターに所属している職員の人数です!



大野記念病院は多職種が力を合わせて行うチーム医療を大事にしています。腎臓病センターは、看護師、臨床工学技士をはじめ、様々な職種が患者さん一人ひとりに関わります。年間約156日間顔を見る環境だからこそ、少しの変化に気づけるように細心の注意を払っています。医師、非常勤医師、その他コメディカルも含めると、100名以上の職員が腎臓病センターに関わっています。

第1回“腎臓病教室”を開催しました。

12月21日に、大野副院長／腎臓病センター長を講師として腎臓病教室を開催しました。第1回目は「腎臓病について」のテーマで実施し、患者さんからたくさんの質問があり、積極的なご参加をいただきました。大野記念病院では、年4回腎臓病教室の開催を予定しています。院内掲示及びホームページでお知らせいたしますので、是非ご参加ください。



大野記念病院 副院長
腎臓病センター長
大野 良晃





大野記念病院の各診療科・部署が健康にまつわる役に立つ情報をお届けします。

1.

薬剤部 からのお知らせ

食後の飲み薬って どうして「食後」に 飲むの？

お薬には、食前、食後、食間、眠前など、多くの飲み方があります。その中でも、大半の飲み薬が「食後」に服用することとされています。なぜ「食後」のお薬が多く
の割合を占めているのでしょうか？ 飲み薬は、服用後に小腸から吸収され、全身の血流に運ばれてから効果を発揮します。また、人の体は食事をすると消化管に血液が集中します。特に小腸では、吸収した栄養を全身に届けるため、たくさんの血液が集まってきます。食後の飲み薬は、この血液の流れに乗ることで最大の効果を発揮するようにつくられているのです。もし「食後」のお薬を服用するときは、軽食でも良いので何か食事をしてから服用するようにしましょう。



Column

薬剤部

栄養科

リハビリテーション部

2.

栄養科 からのお知らせ

「牡蠣」を 美味しく食べて 健康になろう！

冬に美味しくなる貝といえば「牡蠣」。牡蠣には大きく分けて「真牡蠣」と「岩牡蠣」の種類があり、冬に美味しくなるのは「真牡蠣」のほうです。夏の産卵に向けて11月頃からどんどん栄養を蓄えていきます。牡蠣は、人が健康を維持するために必要な栄養素をほぼ全て含んでおり、完全栄養食品と言っても過言ではないと思われます。鉄や銅、亜鉛などのミネラルを多く含み、貧血予防や、味覚障害の予防にも期待できます。また、アミノ酸の一種（タウリン）を非常に多く含み、スタミナ増強、疲労回復、コレステロールの上昇を抑える作用や、目の疲れや、視力の衰えを回復する効果もあるとされています。



3.

リハビリテーション部 からのお知らせ

硬くなった 身体をほぐす 2つの運動

年も明けて、寒さが続いています、家で過ごす時間も長くなって身体が硬くなっていませんか？今回は自宅でできる運動を2つご紹介します。

1つ目はふくらはぎの運動です。

1. 椅子に座って両膝を直角に曲げる
2. 両手で両膝を上から垂直に押さえる
3. 押さえた状態で踵の上げ下げを繰り返す

2つ目は肩回しの運動です。

両肩に手を当て、肘で大きく円を描くように肩を回します。

これを反対回りも10回ずつ行ってください。

（その際は肩甲骨を意識して行ってください。）

ふくらはぎや肩を動かすことで、血流がよくなり、身体もポカポカしてきます。行う際は、息を止めずに無理のない範囲にて行ってください。



大野記念病院は 2024年（令和6年）1月に 100周年を迎えます！

Ohno Memorial Hospital



▲ 大野記念病院100周年ロゴ

1924年に外科大野病院を開設し、地域の皆さまに支えられ、また多くの先人の努力により大野記念病院は100周年を迎えようとしています。100周年を盛り上げるべく、様々な事にチャレンジしていきます。第1弾として、“100周年記念ロゴ”が完成しました。記念ロゴを用いた様々なノベルティーを作成していく予定です。また、地域医療を共に守る先生方をお招きし、演題発表をさせていただく「地域連携フォーラム」の開催や、地域の皆さまと一緒にできるイベントの開催を検討しています。躍動する大野記念病院の実現を目指し、一歩いっぽ歩みを止めずに進んでまいります。

— 患者総合支援センターからのお知らせ —

当院では院内外調整の担当窓口として、患者総合支援センター（病院2階）を設置しています。主な業務内容は、医療連携業務・入退院支援業務・医療相談業務になっております。患者さんやご家族をはじめ、地域の医療・介護・保健・福祉等のあらゆる関係機関や行政機関と連携しています。外来受診・各種検査・入院・救急といった紹介や相談、問い合わせ等がございましたら、お気軽にご連絡ください。

Ⅰ 患者相談窓口のご案内

受付場所	2階エスカレーター右横
受付時間	月～金曜 9:00～17:00 土曜 9:00～13:00
担当	看護師・医療ソーシャルワーカー（MSW） ※その他、内容に応じて専門のスタッフが対応します。
相談内容	医療の相談 ・治療や検査、薬について ・病気の症状や後遺症、副作用について

生活・福祉の相談

・医療費について
・在宅介護について
・福祉制度について

Ⅱ 患者総合支援センター

06-6531-0819
FAX: 06-6531-5396

紹介患者受け入れ窓口

地域の医療機関から依頼を受けて、院内の各診療科へ連絡・調整を行います。スムーズな診療を実現します。

医療・介護・福祉の相談窓口

医療ソーシャルワーカー（MSW）及び専任の看護師が医療・介護・福祉に関するご相談をお受けいたします。

上記以外にも受け付けております。一人で悩まずご相談ください。